17	刈谷	刈谷市立日高小学校	サカキバラ　ミドリ 名前　榊原　碧

分科会番号	7	分科会名	美術教育

研究題目　共に学び合いながら自分の見方や感じ方を広げ、
思いや願いをもって楽しく造形活動に取り組む子どもの育成
～小１図画工作「おしゃれないもむしさんとなかよし」の実践を通して～

１　はじめに

本学級の子どもは、授業や給食、掃除などのふだんの学校生活から、運動会や音楽会などの学校行事まで、クラスのみんなで一緒に取り組むことを楽しんでいる。また、どの子も休み時間の塗り絵やお絵描き、自由で簡単な工作、やり直しが利く粘土遊びは大好きで意欲的に取り組む様子が見られる。一方で、図画工作科の授業で取り組む活動はやり直しが利かない（紙をはさみで切ったときに違う線を切ると紙は元に戻らないのでやり直しが利かないなど）と勝手に思い込み、取り組む前から不安が募り、うまくできないと感じると途端に消極的になってしまう面がある。

１学期に行った図画工作科の題材「ひだっぴぃのわくわく♪さんぽみち」では、グループの友達とおしゃべりしながら大きな画用紙にひだっぴぃ（本校のマスコットキャラクター）が散歩した軌跡を描くことを楽しんだ。しかし、同じグループの意見をしっかり言える子に「こんな風に描こうよ」と言われれば、本当は黄緑色を使って山のような軌跡を描くつもりだったのを諦めて水色で点を描くなど、友達に歩調を合わせることはできても、自分の意見をみんなに広めることが苦手な児童が複数いることがうかがえた。

子どもたちにとって、自分の意見は二の次にして、他者の考えを受け入れるばかりでは、学びや気付きを共有したり、認め合ったりすることができず、自身の考えに自信がもてず、次の活動への意欲につながらないと考える。また、意見がしっかり言える子も他者の考えを受け入れる機会がないと、見方や感じ方に偏りが出てしまうのではないかと危惧した。そこで、図画工作科において、各々が作品を作っていく中で、友達と製作途中の作品について感じたことや思ったことなどを話し合ったり、認め合ったりする場を設けることで、発想や構想を広げ、自分の見方や感じ方を広げて楽しく造形活動に取り組んでほしいと考える。また、失敗を恐れ、消極的になってしまうことに関しては、いろいろな材料に触れ、材料の特性を正しくつかんだり、同じ用具を繰り返し使い、使い方に慣れたりすれば、造形活動に思いや願いをもって楽しく取り組んだり、自信をもって日々の活動に取り組んだりすることができるのではないかと考え、主題を設定した。

２　目指す子ども像

共に学び合いながら自分の見方や感じ方を広げ、
思いや願いをもって楽しく造形活動に取り組む子ども

３　研究の仮説と手だて

〔仮説１〕　感じたことや思ったことなどを、話し合ったり認め合ったり、言葉で整理する言語活動の充実を図れば、発想や構想が広がり、自分なりに対象や事象を味わいつつ、共に学び合いながら自分の見方や感じ方を広げることができるだろう。

〇仮説１に対する手だて

グループ構成の工夫と互いの考えや表現の仕方を認め合う場「いいねタイム」の設定

製作時には、友達の活動の様子を参考にしながら自分の活動に取り入れることができるようにし、発想や構想が広げられるようにする。そのため、今回の実践では、自分の意見が言いやすかったり、友達の意見を受け入れたりしやすいように比較的仲の良い子同士をグループにした。「いいねタイム」では、色のこと、飾り方のことについて注目する。自分の作品のお気に入りポイントをグループの子に伝え合った後、互いに「いいね、すごいね」と感じたこと、思ったことを伝え合う。それ

から、クラスの子にも自分や友達の作品について「いいでしょ、すごいでしょ」と感じたり、思ったりしたことを紹介し、見方や感じ方を広げられるようにする。

〔仮説２〕　試行錯誤する場や、学習過程を振り返り学びを共有する時間を設定すれば、材料や用具を扱う楽しさやおもしろさを味わいながら自己の成長を実感し、思いや願いをもって楽しく造形活動に取り組むことができるだろう。

○仮説２に対する手だて①

さまざまな材料や用具について継続的な使用と試行錯誤を通して、それらの特性をつかめるようにした題材構想の工夫

作品の製作に入る前に、紙、ビニル、アルミホイルなどの素材について、破ったら、丸めたら、丸めたものを再び伸ばしたらどうなるか、実際に一つずつ試すようにする。そうすることで、製作時に材料の特性をうまく使い、作品に生かすことができるだろう。また、前時で使った材料や用具を、次時以降も繰り返し使って製作するようにすることで、材料についての理解を深められるとともに、発想や構想を広げ、思いや願いをもって楽しく造形活動に取り組めるようにする。

○仮説２に対する手だて②

学習過程を振り返り、学びを共有する場の設定

学習の途中や終わりに友達にうまくいった活動の様子や難しかったこと、困ったことは何か、適切な場で伝えたり、ワークシートに書いて振り返ったりして共有する。そうすることで、共に学び合う喜びを味わい、自己の活動や思考に自信をもつことができ、造形活動に対する意欲へつなげる。

４　指導計画（１５時間完了）

段階	時	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 2 3 4	○おしゃれないもむしさん ・紙粘土に絵の具を練り込み、製作する。飾り付けるビーズやモールなどを埋め込んだり、刺したり、化学接着剤で付けたりする技法を学ぶ。 ・はさみで画用紙を好きな形に切り、名札を製作する。	・モールをはさみで切るときは力がいるため、はさみの扱いに気を付けるように伝える。 ・化学接着剤の特性を伝え、一度付けてしまうとはがしにくいことを、実際に確かめられる場を設ける。 ・名札について、自分の好きな形ができるまで、繰り返し製作できるように材料を準備しておく。 ・グループでそれぞれの作品と遊びながら鑑賞し合い、すてきな形や色、丁寧さについて認め合う場を設ける。
深める	5 6 7 8 9 10 11	○おしゃれないもむしさんのおにわ ～にわしさんになろう！～ ・色画用紙や色紙、お花紙、布、ビニルなどさまざまな素材で遊びながらそれぞれの特性をつかむ。見つけた素材の使い方や気付いたことを、学級で紹介し合う。自分のいもむしさんの庭にぴったりな素材を選び、使い方を工夫し製作する。	・いろいろな素材に触れられるよう、十分な種類と量を準備する。 ・庭師になりきって素材で遊んだり、製作したりすることができるよう、子どもたちの呼び方を工夫する。 ・素材で遊ぶ時間内に適宜「成果発表タイム」を取り入れ、見つけた使い方や気付いたことを学級に紹介する時間を設ける。
広げる	12 13 14 15	○おしゃれないもむしさんのねどこ ～すてきなねどこをプレゼント～ ・これまでに使ってきた材料や道具、技法を使って製作する。 ・完成作品をタブレットで撮影する。	・これまでに使ってきた材料や道具、技法について、掲示しておく。 ・撮影ブースは教室内か外か子どもが選べるように例を挙げておく。

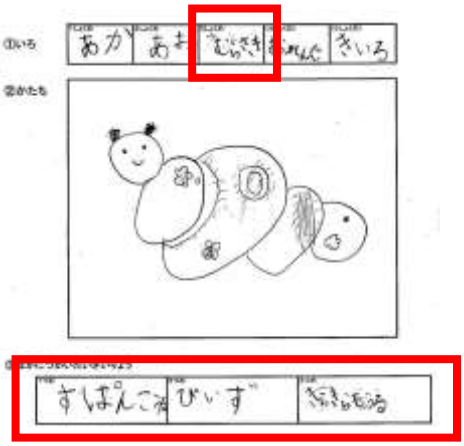
５　抽出児童

抽出児Ａはお絵描きが大好きで、休み時間や課題の終わった後の空いた時間にカラフルでかわいらしい絵を楽しそうに描いて遊んでいる。教師が「色がいっぱいあってすてきだね」と言うと、とてもうれしそうに笑う子である。自分の世界観があり、それに則って絵を描いたり工作したりするので、友達からも称賛され、まねされることが多い。一方で、自分の絵や工作に友達のアイデアなどを取り入れようとする様子はあまり見られない。この実践を通して、造形活動における表現方法について友達と共に学び合ったり、共感したりして、発想や構想をさらに広げてほしい。そして、いろいろな見方や感じ方でより主体的に造形活動に取り組めるようになってほしい。

６　研究の実践

（１）つかむ「おしゃれないもむしさん」

本題材は、ひだっぴぃが「夏休みにお庭でいもむしさんと出会い、仲良くなった」という絵日記を読むことから始まる。いもむしさんの様子として、「色がきれい」「おしゃれをした」というキーワードを押さえ、子どもたちに具体的な様子を考えさせた。「色がきれい」については、明るい色を使う、「おしゃれをした」については、きらきら、ぴかぴか、つるつるなどというイメージから、モールやビーズを使うという意見が出た。資料１の抽出児Ａのアイデアスケッチを見ると「すぱんこうる・びいず・きらきらもうる」などのきらきらしたものを使う予定であること、明るいきれいな色でいもむしの体を作ろうとしていることが書かれていた。この記述から「きらきら・ぴかぴか」という友達の意見を聞いて共感していることがうかがえた。それから、他の子どもがあまり選ばなかった、紫が書かれていたので理由を尋ねると「おしゃれだからだよ」と答え、抽出児Ａの独特な世界観が感じられた。



資料１　抽出児Ａのアイデアスケッチ

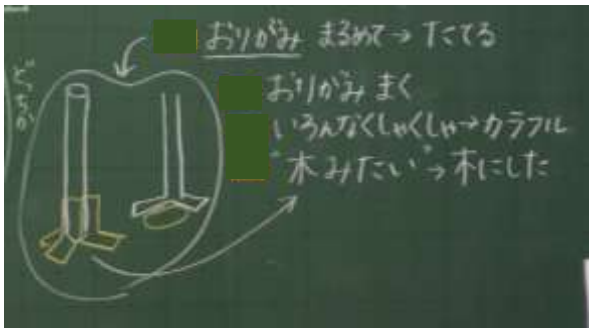
資料２　抽出児Ａの完成作品

いもむしさんは子どもたちが大好きな粘土のうち、紙粘土を使用した。白い紙粘土に絵の具を混ぜ、伸ばす度に色づいていく様子に、みんな感嘆の声を上げながら楽しそうに色粘土を作っていた。体を作り終えると、飾り付けを行った。抽出児Ａのアイデアスケッチは、使うビーズは少なめで、キラキラモールはいもむしさんの触覚であろう部分と、体の飾りで使うように読み取れたが（資料１）、実際に出来上がったものはビーズがたくさん付けられていて、モールはいもむしさんの触角の部分と腕に使われていた。これは抽出児Ａが友達の製作の様子を参考に、自分の作品に取り入れた姿であると思われる。「いいねタイム」では、抽出児Ａは自分のいもむしさんに紫を使っておしゃれにしたこと、手を付けたらかわいくなったことをお気に入りポイントとして、グループの友達に指を指しながら楽しそうに伝えていた。同じグループの友達からは「薄紫がおしゃれでいいね」「カラフルでいいね」「耳（触覚）のぐにゃってしているところがすごくかわいい」などと言われていた。抽出児Ａはグループの子に「でっかいビーズがきらきらでいいね」と伝える姿があり、互いに作品を認め合う様子が見られた。その後の手直しの時間では、抽出児Ａはいもむしさんの体に化学接着剤でビーズを付け足し、資料２の完成作品とした。

振り返りには「児童Ｂがびいずをいっぱいつけているから、わたしもやってみました」と書かれていた。グループの友達の様子や会話から刺激を受け、見方や感じ方が広がっている様子がうかがえた。また、完成したいもむしさんと遊ぶ時間を設けたことで、子どもたちは自分のいもむしさんに愛着をもつことができた。

（２）深める「おしゃれないもむしさんのおにわ　～にわしさんになろう～」

ここでは、いもむしさんのために楽しく遊べる庭を製作した。マンション暮らしで庭の様子が分からない子どももいるため、庭についての共通理解することから始め、庭を造ったり、手入れをしたりする庭師という職業があることを伝えた。庭師になるための「修業」の場を設定し、画用紙、お花紙、折り紙、ティッシュ、アルミホイル、毛糸、ストロー、すずらんテープを用意した。それらを破る、丸める、丸めたものをまた伸ばすなど、いろいろ試し、庭に使えそうな材料や技法について探れるようにした。庭に置くものは、芝生か砂利、木か花壇、岩を設定し、遊具は置かないことにした。



資料３　成果報告会での板書

抽出児Ａはストローを立てるために、まず化学接着剤を使っていた。しかし、うまく付かずすぐ倒れてしまうので、テープに変えて挑戦していた。活動の途中で行った成果報告会で、折り紙を丸めてストローのようにし、資料３の板書のようにストローの根元を開いてテープなどで留める方法が挙がった。抽出児Ａは資料３を生かして資料４のようにストローを立てた。根元のティッシュは、土台との接地面を広くしてストローを立ちやすくしたと考えられる。抽出児Ａが友達の考えを参考にし、自分のアイデアを織り込みながら形にできた様子が見られた。

資料４　抽出児Ａの
ストローの様子

庭の本製作は、アイデアスケッチを基に進めた。子どもたちはグループでの製作にも慣れ、友達の製作途中の作品を見たり触ったりしながら会話を楽しみ、製作していた。お花紙を半分に割き、ぎゅっと丸めて芝生の上に置いて花壇を表現する子どもがおり、前時の「修業」でいろいろな材料を扱ってみたことが生かされていると感じられた。抽出児Ａは黄緑色のお花紙で芝生を広げた後、ストローを使って木を立てていた。資料４では、ティッシュを丸めて土台を固めていたが、庭製作では資料５のようにアルミホイルに変容していた。抽出児Ａに理由を聞くと「アルミホイルで巻いた方がきらきらしててきれいだし、いもむしさんはおしゃれだから」と答えた。ここからも「修業」の成果を生かしながら、自分の思いを表現する姿が読み取れる。また、「きらきらしていてきれい」と「おしゃれ」という言葉を結びつけて思考していることが読み取れる。葉の生い茂った部分は、緑色のお花紙を一度くしゃくしゃにしてから開き直すといった技法を使い、ふわふわ

資料５　抽出児Ａのストローの様子

にしたもので表しており、より木に見えるように工夫することができていた。

庭について発表し合った後の「いいねタイム」では自分のお気に入りポイントについて、グループの子が順番に話し終わったらもう一巡、もう一巡と自主的に伝え続けていた。また、グループで友達の素敵ポイントを伝える場面でも同じように、いくつも見つけて伝える様子がどのグループでも見られた。伝え合う中で、自然に「それいい、まねしてもいい」や「これどうやったの」という会話が交わされていた。抽出児Ａは手直しの時間に木の根元にビーズを貼り付けていた。資料６にあるように友達からのアドバイスを自分の作品に取り入れ、よりよく表現しようとしている様子が読み取れた。

児童Ｃがあどばいすできのしたにびいずをつけたらどうてきかれて、やってみたらきれいになりました。

資料６　抽出児Ａの振り返り

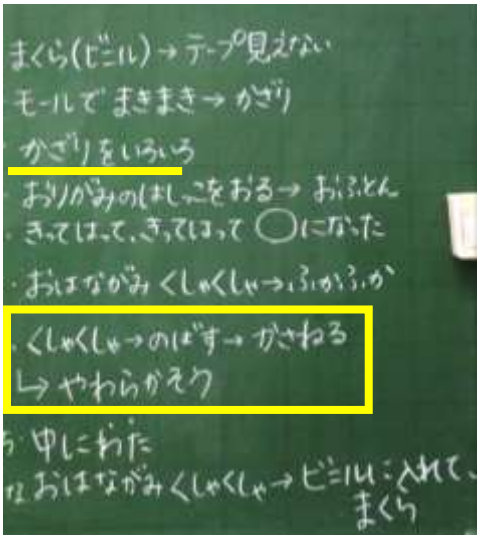
できあがった庭でいもむしさんが遊ぶ時間では、友達同士の庭を合わせて大きな庭にしたり、友達と庭を交換したりして「池があるとお水がすぐ飲めて便利」「芝生がふかふかで気持ちいいね」などいもむしさん目線で遊んでいた。

（３）広げる「おしゃれないもむしさんのねどこ　～すてきなねどこをプレゼント～

庭でたくさん遊んだ後、いもむしさんにゆっくり休める寝床を製作することにした。材料や用具は、これまでと同じものを使って製作した。寝床のアイデアスケッチを描く前に、子どもたちにどんな布団で寝たいかを考えるようにし、クラスで共有した。「ふかふかのお布団で寝たい」という子どもたちのアイデアスケッチからは、お花紙や綿という言葉が多くあり、いもむしさんを自分と同等の立場として捉え、愛着をもっていることが読み取れた。

資料７　お花紙を重ねた布団

子どもたちは「修業」や「おにわ」製作を通してお花紙を細かく裂いて集めたり、くしゃくしゃにしてから広げたりするなど、使い方次第でふんわり柔らかな感じが表現できることを学んだ。「あったかいふかふかのお布団で寝たい」と発言した子どもは、お花紙をくしゃくしゃにして伸ばしたものを何枚も重ね、資料７のようなふかふかで暖かそうな布団を作ることができた。製作途中の作品を見せ合う場を設けたところ、ふかふかな寝具を作るためのアイデアが資料８のように多く挙げられた。抽出児Ａは始め、いもむしさんの体の色に合わせた紫色のお花紙を使って一枚の掛け布団を製作していた。しかし、資料８の意見交換で「くしゃくしゃ→のばす→かさねる→やわらかそう」という意見を参考に改良し、資料９のように水色や青のお花紙を重ねていた。寝床のお気に入りポイントは、資料１０のように書かれていた。資料１０の「ふとんのむらさき……ふかふかになりました」という記述からも意見交換の成果が分かる。



資料８　クラスで共有した意見

寝床について発表し合った後の「いいねタイム」には、虫眼鏡に似せた「みてみてめがね」を準備した。前回の「いいねタイム」の様子を観察していると「どこのこと？ここ？」という子どもたちの発言が何度か聞かれ、聞く側の子どもにとって説明が分かりづらいときがあると感じたからだ。子どもたちは資料１１のように自分の作品のお気に入りポイントにみてみてめがねを当て、熱心に友達に思いや工夫を伝えることができた。

資料９　抽出児Ａの寝床

手直しの時間に、抽出児Ａはこれまでまっさらだった掛布団にビーズで飾りを付け始めた。資料１２の学習の終わりに書いた振り返りの「児童Ｄのふとんが……まねしました」という記述から「いいねタイム」を設定したことで見方や感じ方を広げ、友達の飾り方のアイデアなどを取り入れたと推察される。

いろのこと　ふとんのむらさきとみずいろとあおとちゃいろのいろがきれいでふかふかになりました。

資料１０　抽出児Ａのお気に入りポイントの記述

単元の最後に、これまでに作ってきた作品の撮影会と振り返りを行った（資料１３）。抽出児Ａはできるようになったことについて、ワークシートに「ボンド（化学接着剤）をつかってびいずをうまくつけられるようになったこと」と書いた。そして、一番うれしかったことについては「木がうまく作れたこと」だった。自分でいろいろに試し、具現化することができた経験により、材料や用具を扱う楽しさやおもしろさを味わい、自己の成長を実感しているように受け取れた。

資料１１　みてみてめがねで説明する子ども

５　研究の成果と課題

今回の題材を通して、友達の考えや表現の仕方を認め、自分の作品に取り入れることで、表現豊かに製作したり、他者に認めてもらう喜びを味わいながら楽しく製作したりすることができるようになった。また、同じ材料や用具を繰り返し使って製作する中で、友達の製作の様子を見合ったり、話し合ったりすることで、それらに対して理解を深めることができ、作りたいものの完成形を想像しながら主体的に造形活動に取り組めるようになった。しかし、技能面で見ると、今回の題材を通して培った技能をさらに伸ばすことができると感じる。今後も子どもたちが技能面を含め、共に学び合いながら自分の見方や感じ方を広げ、思いや願いをもって楽しく造形活動に取り組めるよう、教材研究や力量向上に努めていきたい。

児童Ｄのふとんがきらきらしてかわいかったからまねしました。

資料１２　抽出児Ａの振り返り

資料１３　抽出児Ａの撮影会の様子